

どうして聖書の宝のような知恵は人類の殆んどの人に隠されていますか？

とても深い質問ですね。聖書そのものを見ると、「神が知恵を人類から隠している」というより、その宝を見つけるには、人間の側にある特定の態度が必要だから、という考え方ができます。

例えば、次のような理由が考えられます。

1. 人は自分の知恵で十分だと思いやすいから

箴言 3:7 は「自分の目から見て賢い者になってはならない」と勧めています。人間の知識や経験が豊富になるほど、「自分で判断できる」と考え、神から学ぼうとしなくなることがあります。

2. 聖書の知恵は、単なる知識ではないから

聖書の知恵は、情報をたくさん知っていることではなく、エホバを知り、愛し、その考え方に従って生きることと深く結び付いています。箴言 9:10 は「エホバへの畏れは知恵の始まり」と述べています。

ですから、聖書を読んでも「これは自分の生き方にどう関係するだろう」と考えないなら、宝のような部分が見えにくいのでしょう。

3. 心の状態が理解に影響するから

イエスは、同じ話を聞いても、人によって受け止め方が違うことを「種をまく人」の例えで説明しました。(マタイ 13:3-23)

興味深いのは、問題が聖書そのものにあるのではなく、**それを受け取る「心」**にあるという点です。

4. この世には、別の価値観が強く存在するから

お金、成功、名誉、快楽、自己実現などは、とても魅力的です。それらを追い求めることに忙しくなると、「人間はなぜ生きているのか」「神は何を望んでいるのか」という、もっと根本的な問いを考える時間がなくなります。

そして、私はここに聖書の非常に美しい点があると思います。

神の知恵は、特別な知能を持つ人だけに与えられる宝ではありません。

イエスは「あなた方は幼子のような者たちにこれらのことを啓示された」と述べました。(マタイ 11:25)

つまり、学歴や知識量よりも、謙遜に「教えてください」と言える心が大切だということです。

だからこそ、聖書の知恵は「隠されている」というより、宝箱の中にあるけれど、宝だと思って探す人が少ない、という表現の方が近いかもしれません。

そして、これは伝道ともつながりますね。😊

伝道する人が聖書の知恵を「押し付ける」のではなく、相手自身が「これは自分の人生に必要な宝かもしれない」と気づけるように助ける——その意味で、イエスの言った「真理を知る」ということには、とても大きな価値があると思います。

聖書の良い知らせを聞く人が、「これは自分の人生に必要な宝かもしれない」と気づけるように助けるのに大切な、さらに効果的な方法がありますか？

はい。しかも、聖書の良い知らせを伝える時には、**「聖書を教える」ことより先に、「その人自身が宝の価値に気づくのを助ける」**という発想がとても効果的だと思います。

特に大切なのは、次の 7 つです。

1. まず「その人が大切にしているもの」を知る

いきなり聖書の教えを説明するより、

- 「今、一番大切にしていることは何ですか？」
- 「人生で一番幸せだと感じるのはどんな時ですか？」
- 「将来について、何か心配なことはありますか？」
- 「もし一つだけ人生の問題を解決できるとしたら、何を選びますか？」

などと尋ねる。

すると、その人の中にある**「答えを探している部分」**が見えてきます。

2. 聖書を「答え」ではなく「発見」にする

例えば「聖書はこう教えています」とすぐ説明するのではなく、

「聖書に、この問題について面白いことが書いてあるんですが、一緒に見てみませんか？」

と尋ねる。

そして聖句を読んだ後、

「この言葉をどう感じますか？」

「もし本当にこれが実現するとしたら、あなたの人生にどんな違いがあると思いますか？」

と聞く。

自分で発見した真理は、人から教えられた知識よりも心に残りやすいからです。

3. 相手の「今の生活」と聖書を結び付ける

聖書の教えを抽象的に説明するのではなく、

聖書 → 今日の生活

という橋を架けます。

例えば「愛」というテーマなら、

「この考え方を家族との関係に当てはめると、何が変わるでしょう？」

「祈り」なら、

「もし本当に神があなたの祈りを聞いてくださるとしたら、どんなことを話してみたいですか？」

という具合です。

そうすると聖書が「昔の本」ではなく、自分の人生に関係する本になってきます。

4. 相手の疑問を大切にする

これはかなり重要だと思います。

相手が、

「でも、どうして神は苦しみを許しているんですか？」

と質問した時に、すぐ答えを与える必要はありません。

むしろ、

「すごく大切な質問ですね。私も最初はそこが気になりました。」

と受け止めて、一緒に聖書を調べる。

すると「あなたが聖書を教えてくれる」という関係から、**「私たちが一緒に宝を探している」**という関係になります。

5. 「変わらなければならない」と感じさせるより、「こんな生き方がある」と見せる

これは特に大切でしょう。

「あなたはこうすべきです」と言われると、人は自然に身構えます。

一方、

「聖書には、こんな考え方があります。これを実践すると、人間関係がこう変わることがありますよ。」

と紹介すれば、相手自身が考えられます。

強制ではなく魅力によって心が動くほうが、聖書の良い知らせには合っていると思います。

6. 小さな「実験」をしてもらう

これはとても面白い方法です。

例えば「親切」について学んだなら、

「今週、誰か一人に、見返りを期待しない親切をしてみませんか？ そしてどう感じたか、次に会った時に話しましょう。」

と提案する。

すると聖書の教えが、

知識 → 実践 → 経験 → 確信

へと変わっていきます。

7. 最も大切なのは、「その人を愛している」ということが伝わること

結局ここに戻ってくるのではないのでしょうか。

人は、自分を「伝道の対象」として扱われていると感じると、心を閉じることがあります。

でも、

「この人は本当に私の幸せを願ってくれている」

と感じれば、聖書の話にも心を開きやすくなります。

ですから、良い伝道者は「どうすれば相手を聖書に興味を持たせられるか」だけを考えるのではなく、

「どうすれば、この人がエホバのことを知ることによって本当に幸せになれるだろう」

と考えるのだと思います。

そして面白いことに、そういう気持ちで接すると、伝道そのものがかなり変わります。

「聖書を伝えなければ」ではなく、

「この人にも、この宝を見つけてもらえたらいいな」

という気持ちになるからです。

これは、先ほど話していた**アガペーの愛**とも深くつながっていると思います。相手の反応や結果を自分の成功・失敗として考えるのではなく、純粹にその人の益を願って聖書の宝を差し出す——。その姿勢そのものが、良い知らせの魅力を伝えることになるのではないのでしょうか。

参考になりました。ありがとうございます。

こちらこそ、ありがとうございます。😊

今回のお話は、**「聖書の宝を相手に渡す」のではなく、「相手自身が宝を見つけるのを一緒に喜ぶ」**という言葉にまとめられるかもしれません。

そう考えると、伝道は単なる「説明」ではなく、人を愛して、その人と一緒に宝探しをする働きになりますね。

とても温かい見方だと思います。

さらに聖書を読んだり調べる楽しさを伝える秘訣がありますか？

はい、あります。むしろここには、聖書を「勉強させる」のではなく、「発見する楽しさ」を味わってもらうという、とても大きな秘訣があると思います。

1. 「答え」より「面白い問い」を先に置く

例えば、

「なぜイエスは、この時にこの言葉を使ったんでしょうね？」

「この聖句だけ読むと、ちょっと不思議だと思いませんか？」

と問いかけてから調べる。

すると、聖書を読むことが**宿題ではなく謎解き**になります。

2. 「予想してから読む」

これはかなり楽しい方法です。

例えば、

「この状況だったら、イエスは何と言うと思いますか？」

と先に予想してもらおう。

そして実際の聖句を読む。

「なるほど、そう答えたのか！」という意外性が、次の発見につながります。

3. 一つの聖句から「芋づる式」に調べる

例えば一つの聖句に「愛」という言葉が出てきたら、

愛とは何か → イエスはどうか愛したか → 私ならどう実践できるか

と少しずつ広げていく。

すると、

「聖書には、調べれば調べるほど関連することが出てくるんですね」

という感覚を味わってもらえます。

4. 「なぜ？」を大歓迎する

聖書を読む楽しさを奪ってしまうのは、

「そこはこういう意味です」

と、すぐに答えを与えてしまうことです。

むしろ、

「いい質問ですね。ちょっと前後を読んでみましょうか」

「別の聖句ではどうなっているでしょう？」

と一緒に調べる。

質問すること自体が楽しいと感じてもらえると、聖書研究は長続きしやすくなります。

5. 「発見」を本人の言葉にしてもらう

これは特に重要だと思います。

聖句を読んだ後、

「今のところで、何が一番印象に残りましたか？」

「これって、普段の生活にも当てはまりそうですか？」

と尋ねる。

そして相手が、

「ああ、そういうことか！」

と言った瞬間を大切にする。

その「分かった！」という喜びこそ、聖書を調べる楽しさの核心だからです。

6. 少し「余白」を残す

全部を説明しないことも大切でしょう。

例えば、

「実は、この聖句にはもう一つ面白い点があるんです。でも、それは次に一緒に調べてみませんか？」

という具合です。

もちろん引き延ばすためではなく、「もっと知りたい」という自然な好奇心を育てるためです。

そして、個人的には一番大切なのは、教える側自身が聖書を調べることを楽しんでいることだと思います。

伝える人が、

「私もこの聖句を調べていて、こんな発見があったんですよ！」

と目を輝かせて話せば、それだけで相手に伝わります。

子供に「この本は面白いよ」と言うより、親が夢中になって読んでいる本を見せる方が、興味を引くのと似ていますね。

そしてこれは、以前お話しした**「聖書の宝探し」**というイメージとぴったり合います。

「今日は何を教えよう？」ではなく、

「今日は一緒にどんな宝を発見できるだろう？」

そう考えると、聖書を読む時間そのものが、楽しい時間になっていくのではないのでしょうか。

今、聖書の思いつく宝を1つだけ挙げることができますか？

もちろんです。😊

私が「これは聖書の宝だな」と思うものを1つだけ挙げるなら、**「エホバは、人間の弱さを知った上で愛してくださる」**ということです。

例えば詩編 103:14 には、

「神は私たちの造りをよく知っている。私たちが塵であることを覚えている。」

とあります。

これは、単に「神は人間を愛している」という以上に深いと思います。

エホバは、私たちが何を間違えるかだけでなく、「なぜそうになってしまうのか」まで理解してくださる。

だから、自分の弱さに気づいた時に、

「こんな自分では神に受け入れてもらえない」

と考えるのではなく、

「エホバは私の弱さを知っていて、それでも私が良くなろうとすることを大切にしてくださる」

と考えられる。

これは人生の苦しい時に、本当に大きな宝になると思います。

そして、さらに調べていくと、「ではエホバは、人が失敗した時に具体的にどう接してくださるのだろう？」という次の宝が見つかってきます。

こうして一つの聖句から、次の宝、また次の宝へ……。

これが聖書を調べる楽しさの一つなのかもしれませんね。💎

とても参考になりました。

ありがとうございます。😊

今回の「聖書の宝」という話、とても良いテーマだと思います。

聖書を人に伝える時も、**「正しいことを教えなければ」ではなく、「この人にも、この宝を見つけてほしい」**という気持ちで接すると、言葉の選び方や相手への接し方が自然に変わってきそうですね。

そして何より、伝える側自身が「まだこんな宝があった！」と聖書を楽しんでいることが、相手にも伝わるのだと思います。🌱